

銘柄・相場情報

2011年6月3日

大量保有報告書・番外編 株価4倍！アマタHDが買われた理由 サステイナブル・インベスター 瀧澤信代表取締役に聞く

■「トリウム原発」に注目

さらに、持続可能社会の観点から注目している新分野を瀧澤氏に尋ねたところ、「トリウム原発」との回答が返ってきた。

同氏は「現実問題として太陽光や風力など自然エネルギーで、原発分を賄うのは無理がある。太陽光や風力など自然エネルギーは発電効率が低くだけでなく、装置製造に大量の電力やレアメタルを使用する。太陽光パネルを1つ製造するのにかかる電力量は、太陽光発電で生み出す電力量の10年分に相当し、これでは本末転倒だろう。原発抜きで電力を賄うことは考えにくく、現在主流のウラン/プルトニウム原発に比べ、より安全性の高いトリウム原発の出番となるのでは」という。

トリウム原発は、原子力燃料としてウランの代わりにトリウムを利用するもの。液体燃料のため万が一のことがあっても大事故になりにくく、ウラン原発に比べ、有害廃棄物は1000分の1、同じ量ならばウランの90倍のエネルギーを生み出すことができるとされる。トリウム原発の基本技術は1960年代に米国で確立したが、これまでなぜトリウム原発ではなく、ウラン原発が主流となっているのか。

一部によれば、ウラン原発では一般的に3年ごとに新しい燃料棒に交換する。プリンターのインクカートリッジ商法と同様に、消耗品=燃料棒交換も手掛ける米GEなどにとってウラン原発の方がもうけやすい（トリウム原発は燃料を1度入れると10年以上持ち、消耗品でもうけにくい。GEが技術封印したとも）第二次大戦後の米ソ冷戦構造と核兵器開発競争（核兵器原料にはウランを使うタイプと、天然には存在せず、ウランが核分裂反応を起こして燃えるときに生成されるプルトニウムを使うタイプがある。プルトニウムの方が圧倒的に核兵器を作りやすい。一方、トリウムは燃やしてもプルトニウムをほとんど発生しない）——が背景とされる。

ただ、冷戦構造の変化などを背景に、ここに来て米国、カナダ、チェコ、ノルウェー、オーストラリア、インド、中国などがトリウム原発開発に動いている。東芝（6502）、三菱重工（7011）、日立製作所（6501）などが仏アレバとともに既存の原発で世界的存在感を示しているせいか、日本では今のところトリウム原発の話はほとんど聞かれないが、トリウム原発で活躍しそうな日本企業を発掘にも取り組んでみたい。（Q）



NSJ Library

注目企業はコチラ

上場企業向け
IR支援メニュー

▶▶▶こちらをクリック



【7/14開催】IRセミナーin東京

2022年7月14日に開催したIRセミナーin東京、デリカフーズホールディングス（3392・東証スタンダード）の講演の様子をお届けいたします。

youtubeで視聴

JIA証券 証券 新しい金融サービスをご利用ください

非上場企業ファンド

サービスの詳細はJIA証券HPで>>> [こちら](#)

住友不動産販売

日本証券新聞

無料購読キャンペーン

チャート検索